

高齢者の立場で男女共同参画を考える

平成15年度川内市男女共同参画推進事業
北京JAC九州・山口・沖縄第4回シンポジウムinせんだい実行委員 池田 瑞穂

夫婦共に元気で老人施設に入所している人で、夫婦部屋に入らないで夫婦別々の部屋を借りる人が多いという。これは夫の側の要望ではない。整った施設に入ってまで同じ部屋で暮らさなくてもという妻

の本音らしい。施設入

所をそろそろ考えて

いい年になった同

年輩の友人から聞

いた話である。後

学のために見学に

行ったその友人はが

っかりして施設に入る

望みは消えうせたという。

人生終わりに近づいた老夫婦の関係

はそこまで随ちるのか、情けない。

市が主催する中央公民館の自主学

級に通っている。学級生は圧倒的に

女性が多い。70余りの学級長が集ま

ってその中から運営委員を選出する

ことになる。多数決でおおかた男性

が選ばれる。数名の運営委員の中

に女性はほとんど選出されない。自主

学級の運営に参画する程度の労は女

性もあってほしい。少し面倒な仕事



北アルプス・槍ヶ岳にて

になるとそれは男性が適しているとか、女性ではうまく話が進まないなど逃げの姿勢が見られる。老人会の役員にしても然りである。役員選出が難しくその存続すら危ぶまれている会もある。平均寿命が7年も短い男性のみに役を押し付けるのは酷いものがある。従来の習慣を破るのは相当の困難や苦勞を伴うだろうがそこを変えていくのが新しい男

女の生き方ではないだろうか。

リタイヤして13年にな

る。最後の夫婦は経済

的に対等でなければ

ならない。妻が財

布のひもをがっちり

握っているのも

困るし、夫が勝手

に使いまくるのもま

ずい。以前のことが、

国際交流センターに派遣さ

れていた中国の女性に言われたこと

がある。「あなたは客人と話ばかり

していて奥さんだけに家事を任せて

いるが、中国だったら離婚話にもな

りかねませんよ。」と。でもその女

性が言った。「日本の女性は家事で

無理をしても財布のひもを握ってい

るからうらやましい。」と。金で夫

婦の仲がこじれる例は多い。ちなみ

に私の毎月の雀の涙ほどの小遣いは

妻と同額である。

～講演会から～県民交流センターにて

心に残った言葉を挙げてみました。

5月14日(金) 上野千鶴子が語る「これからの女たち、そして男たち」

講師：東京大学大学院 教授 上野 千鶴子 氏

介護保険は官(社会福祉協議会)、民(NPO=民間非営利団体)、共(法人・福祉ワーカーズ等)が参入できる市場になった。

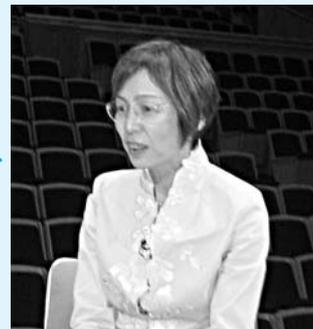
女性はこれまでただ働きで介護をしてきたが、介護保険法がそれを報酬を伴う労働に変えた。このようにニーズに応じた仕事を女性が作り上げる時代だ。



5月22日(土) 「いま、共生の時…～女(ひと)と男(ひと)が共に生きる社会」

講師：作家 落合 恵子 氏

男女共同参画を女性がもっと頑張ることで上の地位を獲得することだと誤解している人がある。そうではなくて、男女が共に幸せになるためにお互いに助け合っていきましょうと、男性でも女性でもつらいときはつらい、助けてと言え社会が男女共同参画社会だ。



この情報誌に関するご意見・ご感想、取り上げて欲しいことなどありましたら、下記までご連絡ください。

編集発行

〒895-8650 川内市神田町3番22号 川内市役所 企画経済部 企画課 男女共同参画係

☎235111(内線482) FAX205570 Eメール: gender-pl@sendai-net.jp